

リニア新幹線環境影響評価準備書に関する環境省交渉

2013年10月17日(水)15:00～参議院議員会館 B103会議室

<環境省出席者>

総合環境政策局環境影響評価室・室長補佐
長谷川敬洋

〃 ・環境専門員

阿南一穂

大臣官房・リサイクル対策部産業廃棄物課
・課長補佐

梶川浩二 (他1名)

<リニア新幹線沿線住民ネットワーク出席者>

共同代表 天野捷一、川村晃生、原重雄
(他各団体から25名)



<準備書の予測・評価>

Q 準備書の内容には問題点が多すぎて、透明性、公正さが無い今回の環境影響調査をやり直すべきだ。

A 説明会に出た方が不満だったと聞いているが、説明の責任は事業者が負うべきだ。

<工事の影響>

Q 立坑やトンネル工事は11年間も続く。工事車両の排出ガスの予測があるが、現在でも幹線道路では基準値を超えている物質もある。また、騒音や排出ガスがゼロだった場所で工事がある。南アルプスでは工事用道路がつくられ、夥しい数のダンプが走り回る。

A 何もなかったところで工事をするのだから何らかの影響があるのは当然。環境基準を超えて間違っても良くはならない。山間地では基準を超えたら住民に何らかの負担となる。そうした場合は基準にとらわれず、私たちも環境を守るための努力をする。

<事後調査やモニタリングなし>

Q 準備書では環境汚染物質について事後調査やモニタリングをしない項目が多い。

A 騒音であれば、自治体が観測装置を設けているので、工事中もそれが参考になるのではないか。アセス過程で計算式を使っているが、それに不確実性があるとすれば、事後調査をするが、それ以外についてはしなくてもいいことに法律上はなっている。とはいえ、それだけやっていたらいいということではなく、今後も場合によっては観測してもらうことを考えている。

<地下水への影響>

Q 山梨リニア実験線の延伸工事では、JR 東海が認めているだけでも3か所の水涸れが起きている。延伸工事の環境影響評価は行ったのか。3次元浸透流解析だけでは地下水の

実態を把握できない。

A 私たちも地下水には関心を持っている。地下を掘れば地下水に影響がある。おそらく、何事も起こらないということにはならない。JR 東海も調査をしっかりと、工事中も調べて水涸れ対策には万全を期してほしい。

Q もし地下水が枯渇するような事態になったら、何かしら勧告するのか。

A 事後調査はすると言っているのだから、意見を言う機会は今後もある。

<磁界の実数値不明>

Q 磁界の影響が心配という声が多い。

A 磁界については国交省が ICNIRP (国際非電離放射線防護委員会) の基準を使っている。おそらく、国際的に確立した基準はそれだけだ。

Q 上海のトランスピッドでは車内の磁界もきちっと公表している。それが無いとリニアも検証できない。環境省もそのデータを出させて、正しいものかどうか検証してほしい。

A 説明の数字では不十分なのか。

Q 車内のデータが無いはずがない。周波数も 12 Hz 以上。リニアは危険な乗り物だ。

A 乗客の安全を守るのは車内なので、JR 東海はないがしろにしないと考える。

<建設発生土>

Q 建設発生土がどのように運ばれどのように処分されるのか明らかでない。処分先が決まらない原発と同じだ。

A 膨大な量が出るので関心を持っている。公共工事に使うとして一部の場所は決まっている。あてがなくてその辺にほったらかしということにはさせない。新たに処分場として使うとなれば、その場所の環境影響調査をして環境保全措置をとるようにしてもらいたい。

<生態系への影響>

Q 準備書の生態系対策には問題がある。猛禽類保護の代替巣について、オオタカだけでなく、クマタカやノスリもその方法をとろうとしているが、知見はない。行動圏に与える影響を考慮していない。地元では南アルプスを世界遺産に登録申請を考えている。猛禽類の生態系維持は準備書にあるよりも大変なことだ。

A 環境保全措置が十分でないとすれば指摘して行きたい。

Q 自治体や住民に環境影響調査地点や内容を知らせないという透明性のない結果を認めてもらおうというのはムリだ。関連質問を求める。

<関連質問>

Q 川崎市ではトンネル残土の処理について、環境省から認可をもらったとして、船で3日離れた日本海溝の海上から土砂を投棄している。富二栄産業という企業だ。

A 私は産業廃棄物担当なので分からない。建設発生土は廃棄物の対象ではない。どういう部署からどういう認定を受けるのか調査してお答えしたい。

Q 説明会で磁界について質問した。リニアの台車に超電導磁石が6基ついている。磁界の周波数が6 Hz というなら、 $6 \text{ Hz} \times 8 \text{ 基} \times 2$ (すれ違い) = 96 Hz になるのではないか。周波数が多くなれば、磁界の基準値も下がる。また、ルート図には平成8年の古

い地図を使っている。アセスで古い地図を使ってもいいのか。

A その縮尺では新しい地図がないのかもしれない。説明する際は新しい地図を使ったほうがいい。新しい地図を使うべきと考える。

Q 大鹿村のものだが、説明会でクマタカの2～3ペアはいなくなってしまうだろう。イヌワシには影響が無いと言うのはおかしい。小淵沢に沿ってトンネルが掘られる。水源であり、「3分の2は水涸れする」と言っている。生物にも影響を与えるのは避けられない。調査場所が少なすぎるし狭すぎる。ユネスコ・エコパークへの推薦書を出されたそうだが、こうした工事の影響について環境省は把握しているのか。山梨県と静岡県の間境の標高2千メートルのところに残土処理場ができるとか、エコパークへ申請しているところにつくってもいいのか。

A 環境保護のため頑張る。

Q 全体に誠意のない準備書だ。地下水が枯れた実験線の知見が活かされていない。景観について、工事前と工事後のイメージ図を示しているが、これも実験線では工事後の写真があり、その知見も生きていない。景観の専門家に意見を聞いて「影響は無い」「景観の調和がとれている」とJR東海は言っている。私は景観の専門家で、日本景観学会の副会長を務めている。誰も意見を聞かれていない。いったい、だれがどのように意見を聞かれたのか、議論をしたのか教えてほしい。指導をきちっとしてもらいたい。

Q 地下水の調査は決定的に不足している。工事前、工事中、工事後のモニタリングを行うべきだ。東濃ウラン鉱山について一切ボーリング調査をしないで、鉱山を避けることができると言っているが、環境省としてきちっと指導してもらいたい。

Q 私の住む相模原市では車両基地によって40世帯が移転させられる。自然環境の中で移転させられるのは環境権の侵害だ。環境省もよくよく認識してほしい。また、橋本では、歴史のある高校を移転させて中間駅をつくる。相原高校は農業や環境を守る若い世代を育てている。これも生活環境の破壊だ。もう一度JR東海を指導してもらいたい。

Q リニアには代替案があるはずだ。東京から名古屋まで大陸棚の海底にトンネルを掘れば問題は発生しない。

Q 環境省として、国交省に対しリニア計画で文句や注文が言えるのか。

A 今日のような意見をJR東海に対して言ってほしい。そしてこれから各県の環境影響審議会でも準備書が審議され、その後評価書が環境省にも示される。私たちはその段階で意見を言い、修正された評価書を基に工事認可の手続きに入る。出来るだけ皆さんもあちこちで声を上げてほしい。皆さんが声を上げることによって私たちも文句を言える。

Q もちろん声は上げるが、環境省もそれに負けないように声を上げてほしい。また、各県の環境影響審議会に対し、環境省として、住民の声を受けて手続きではなく真剣な議論を行うよう指示してもらいたい。

以 上